

一般社団法人

# 香川県作業療法士会ニュース

発行：(一社)香川県作業療法士会広報部

事務局：〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜5番丁62-1

四国医療専門学校 作業療法学会内

(一社)香川県作業療法士会事務局

URL:<http://www18.ocn.ne.jp/~k-ot/> E-mail:[kagawa-ot@star.ocn.ne.jp](mailto:kagawa-ot@star.ocn.ne.jp)

## 学生との関わりで気付いた「作業」

臨床から教育の場に変わり3年が過ぎました。少しずつ慣れてはきましたが、人に指導するとなると自分が勉強しておく必要があります、毎日がとても大変です。

私の担当科目の中に「基礎作業学実習」という科目があります。内容的には木工作業や革細工などの「作業」について実習しながら作業の特徴や治療効果について考えていく科目です。ただ、学生はいつもの座学と違い、作品作りを楽しみながらしている学生も多く、レポートを提出してもらおうと「楽しかった。」「うまく作品ができた。」など肝心な作業分析よりも楽しかった感想を書く学生も多いです。

レポートを見た後に、私は学生に「みんな作品作りばかり楽しんで作業についてもっと分析したり、治療効果を考えなさい。このままでは作業のことが理解できていない作業療法士になるぞ!」と話をしました。学生に思わず言った言葉でしたが、ふと自分のことを振り返ると臨床場面でどれだけ作業を理解して進めてきたのかと自問していました。革細工などの作業活動も数回行った程度で、徒手的な機能訓練を中心に行うことが多く、活動や参加についてどこまで介入できていたのかなと振り返っていました。作業療法士なのに作業を本当に理解していたのかなと思い返しました。

ちょうどこの原稿を依頼された時期に日本作業療法士協会が作業療法の「定義」を改定し総会で改定案が可決されたと聞きました。33年ぶりに定義が見直され、その中で「作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す。」と新しく定義に記されています。作業には人が営む生活行為とそれを行うのに必要な心身の活動が含まれるという内容です。

今回、基礎作業学実習という科目を通じて「作業」について考えさせられる機会を得ました。もう一度新しい定義を見直して「作業」療法士なのに「作業」のことをもっと理解しなくてはいけないあと学生との関わりの中で気付くことができました。



穴吹リハビリテーションカレッジ

山下 良二

# 先輩の声

No.30 穴吹リハビリテーションカレッジ 谷渕 加奈子  
(18年目)

物理が苦手の手先は割と器用、彼氏が在学していたからという理由で、大学の作業療法学科を選択し、作業療法士になって18年がたってしまった。授業は睡眠学習、サークル、バイトに明け暮れた学生時代を過ごしていた私が教員をしているのも不思議で仕方がない。

そんな感じで作業療法士になってしまったため、臨床でつまずいた。作業療法の専門性って何？自分は何をやっているのだろう？と迷い、この仕事はやっていけないな、と感じていた。そんな時に仲間達の存在は大きかった。色んな勉強会に参加し、飲み会の席や様々な場所で悩みや夢を語り合った。その時の経験があったから自分の方向性がみえ、ここまでくることができたのだと思う。

後輩のみなさんに伝えたいことは、これから色々なことがあると思うけれど、つまずいた時や迷ったときは、大いに仲間と語り合ってほしい。きっと光が見えてくるから。

がむしゃらに進んだ日々は遠くなり、家庭をもち子供が生活の中心となっているが、人生の役割や価値の変化を作業療法士として楽しんでいる。

結果オーライだが、作業療法士でよかった！



**No.31 三豊市立西香川病院 国本 恭子**

(10年目)

私は三豊市立西香川病院に勤務してもう10年が経ちます。その10年の間に回復期リハビリテーション病棟、認知症デイケア、精神科病棟の3つの病棟で働く機会があり、とても勉強になりました。

それぞれの病棟に特性があり、リハビリテーション科のスタッフとして何をすべきか等の目的が個々の病棟で違うため作業療法士としての役割についてさらに詳しく学ぶよい機会になったと思います。

それぞれの病棟で働く中で私が後輩の皆さんに伝えたいと思ったことは「チーム医療」においてとても重要な役割を担う報告・連絡・相談（以下ホウレンソウ）についてです。

ホウレンソウの大切さは私たち西香川病院の職員は全員新人研修の時から学ぶことです。どの部署でも、どこの病棟でもホウレンソウは重要です。他部署のスタッフとの関係性が上手くいっていると仕事も楽しく、効率もupし、実際に患者さんや利用者さんに対する連携も取りやすくなり、結果的にリハビリの質の向上につながります。

基本的なことですがホウレンソウをきちんと行うことでチーム医療が確立され、一人一人に合ったリハビリやケアの提供が可能となり、リハビリの質の向上にもつながると考えます。

とはいえ、人と人との関わりは時に難しい事もあります。お互いにぶつかることがあっても患者さんや利用者さんの事を大切に思う気持ちは皆一緒です。納得できるまで話し合う機会を設けることや先輩スタッフに相談してアドバイスをもらうなど他の人を良い意味で巻き込んで下さい。巻き込まれた人も患者さんや利用者さんについて考える良い機会に



なります。

忙しい日々でもお互いに助け合いながら思いやりを忘れず、情報の共有を行い、質の高いリハビリを提供していただきたいと思います。

# 1人職場のOT

看護小規模多機能型居宅介護 然 大嶋 祐輝

看護小規模多機能型居宅介護 然（以下看多機）は、平成29年1月に開設した事業所になります。看多機とは、デイケアを中心に、訪問看護・訪問リハ・訪問介護・ショートステイなどのサービスを同一事業所内で利用することができます。また、24時間体制で看護師の対応が可能です。

当事業所の理念は、全ての方がどのような心身状態にあっても、住み慣れた地域でその人らしく生活を送ることができるよう、利用者様・家族様・地域に対して支援することです。

現在、リハビリ職は私1人です。訪問リハ以外の時間は、ショートステイ・デイケアで利用されている方のリハビリを行っています。利用者様に対し、より質の高いサービスを提供できるよう、看護師・介護士・ケアマネジャーなどの多職種スタッフと連携をとりながら日々奮闘しております。リハビリに関しては、全て自分自身で決めないといけない為、利用者様に提供しているリハビリ内容は本当に正しいものなのか、他に良い方法があるのではないかと、毎日頭を悩ませています。悩むことも多いですが、リハビリを自由に実施することができる、1人しか居ないことにより責任感を持つことができるという利点もあります。

最後に、1人職場は不安いっぱいであり、提供したリハビリ内容が受け入れられないこともあります。多職種と密に連携し、利用者様が住み慣れた地域でその人らしい生活を送れるよう支援していきたいと思っています。



## No.16 病院紹介

### 榎村病院

松原 賢固

香川大学医学部附属病院にほど近い当院は、1959年に榎村医院として開業致しました。1971年に榎村病院となり三木町初の救急病院として誕生し2009年には医療法人 春風会となりました。現在病床数は37床、隣にはデイケアも開設しております。

病院理念でもある「私たちはできるだけ患者様の苦痛を和らげ社会復帰を一日でも早めることに努めます」「常に向上への志を待ちます」「地域と共に伸びる医療・介護・福祉をめざします」に則り急性期から生活期まで、地域に密着し、患者様が利用しやすい病院を目指し運営しております。また、ポスト、サブアキュート機能のある病院として、術後患者様の受け入れや当院での手術も行っております。リハビリテーション部はデイケア職員も含め現在OT4名PT7名 マッサージ師2名の配置をしております。当院OT部門では、橈骨遠位端骨折を中心に指や肘、上腕骨、鎖骨の骨折、ばね指や末梢神経損傷等の術後リハを主に行っております。退院後も継続して外来リハビリを行うことが可能で、通院が困難な方へは訪問リハビリも行っております。

さらに2018年7月より榎村病院は全床地域包括ケア病棟として新たなスタートを切ります。病院の機能としては変わることなく、地域密着病院として患者様の住み慣れた地域でのより良い医療、介護の提供を行えるように、他部門、他院との連携を図り患者様、ご家族様のご希望に添えるよう日々精進していきます。



## MTDLP特設委員会からの活動報告

橋本病院 瀬瀬 功

現在、生活行為向上マネジメント（以下MTDLP）特設委員会は8名で活動しております。香川県のMTDLPの実情は、指導者認定者3名、MTDLP基礎研修（概論）の修了者242名（35.6%）、MTDLP実践者研修の修了者33名（4.9%）です。協会全体の指導者認定者は145名と、全国的にも指導者が少ないのが現状です。MTDLPの考え方は、作業療法士（以下OT）としてのベースとなるものです。患者さんのしたい事、できるようになりたい事、将来の想いをOTが聴取し、評価しながらその想いを具現化するツールです。MTDLPを理解することで、どの領域でも使用することができ、臨床的な考え方を身につけることができます。手技やアプローチではなく、目標指向過程を明確に本人や家族に提示でき、また患者や家族は生活をイメージしやすくなり、患者・家族のチーム参加を促すことができるとされています。

平成30年度には、現職者選択研修の必須MTDLP基礎研修を10月14日サンメッセ香川にて開催します。基礎研修未受講の方には、今後の作業療法の主流となる考え方を学ぶ機会にしてほしいと願っております。また、事例検討会として①8月30日三豊市立西香川病院、②9月13日かがわ総合リハビリテーションセンター、両日ともに19時～21時の開催を予定しております。事例検討会で発表した場合、MTDLP実践者研修終了だけでなく、現職者研修の事例検討も同時に終了することができます。また、指導者たちからのアドバイスもあり、事例登録への足掛かりにもなります。MTDLPの事例登録はMTDLP指導者認定だけでなく、同時に認定作業療法士の取得条件である事例



報告の一つとして数えることが出来ます。自分自身の作業療法の実践を整理する良い機会です。是非ともMTDLP事例登録を目指し、研修へご参加ください。OTは患者さんの意見をしっかりと聞いて、その想いを現実に近づけることができる職種である事を、MTDLPを使って示していただけたらと思います。委員としてサポートをさせていただきますので、まずは研修会に参加してみてください。今後ともMTDLP特設委員会をよろしくお願い致します。

## 連載企画5 第三弾

# 「地域ケア会議」

### 第3話

介護老人保健施設 白寿の杜 中川 真人

皆さん、こんにちは。地域ケア会議の連載は今回が最終回となります。それでは、丸亀市の「地域ケアコミュニティ会議」の具体的な進め方について紹介します。まず下の表を確認して下さい。

#### ○一件あたりの進め方及び所要時間

	項目	所要時間	ポイント
①	ケースの概要と課題、支援計画について説明	約5分	①アセスメントシートを用いて、現在の状態に至った個人因子と環境因子を簡潔に説明 ②課題分析を用いて、優先課題について説明 ③支援計画における支援方針、目標等を説明
②	支援計画について、参加者から意見や助言など	約15分	専門職の立場から、具体的な課題解決に向けたケアプランになっているか等を発言。 オブザーバーによる進行管理
③	支援計画の検討	約5分	ケースの状況把握について共通認識し、再度最初の課題についての解決策を整理する。
④	まとめ	約5分	支援方針等の確認 残された課題の確認

このような流れで会議が進行されていました。リハビリテーション専門職としての立場からの助言を求められることは多く、毎事例において必ず発言していました。しかし、ほぼ全事例が困難事例であり、答えが見つからないことが多かったです。この「地域ケアコミュニティ会議」は個別ケースを積み上げて地域課題を把握していくことを目的としていたため、通常の「個別会議」とは事例の選定が違っていたようです。個別会議では認知症の方がほとんどですが、今回の会議は認知症の方が少なかったです。介護サービスを拒否しているケースも多く、介護保険以外の社会保障制度やインフォーマルな社会資源等の知識が必要だったため助言にはとても苦労しました。以上で私の「地域ケア会議」の話は終了になります。

毎年、日本作業療法士協会が「地域ケア会議および介護予防・日常生活支援総合事業に関する人材育成研修会」を開催しており、その内容を持ち帰って各士会ごとで人材育成を行っていく流れになっています。今後も県士会で同内容の研修会を開催していくと思いますので、その際は是非参加して下さい。



開催報告

# 地域における障害者スポーツ活動促進の意義

医療法人社団光風会三光病院 森本 敏充

週に一回、東讃・中讃地域の精神科デイケアに所属する通院患者が一同に集まり、四国チャンピオンズリーグの制覇を胸に秘めメンバーが一丸となって練習に打ち込むフットサルチーム、それが「まんでガンバ!讃岐」です。

この度当院での部署異動の関係で創設メンバーであった松下氏の後任を私が受ける運びとなり、参加当初は戸惑いや不安はありましたが、参加を重ねる度徐々に選手達と打ち解け、今では選手と一緒に無心でボールを追いかけたり、大会準備や横断幕を制作したりと裏方的な仕事もこなしつつチームに関わっています。

私自身チームをサポートする側に立ち間近で見ていると、改めてスポーツは楽しみや喜びなど心身の健全化やコミュニケーションを促進する等幸福で豊かな生活を営む基盤であり、自らの可能性にチャレンジしたり、仲間との交流が生活の質を高め、人生がより豊かになる場であると肌で感じます。

「障害を持つもの誰もが地域の中でスポーツに参加出来る場があって然るべき」と、いわき病院北村氏をはじめ活動を推進してきた多くの有志の想いは同業種を中心に徐々に賛同者を増やし、去年は一施設が新たにチームに加わり組織自体にも広がりが見えてきました。今後より多くの障害者が地域で気軽にスポーツに携われる様な体制が進み、地域社会の活性や障害者共生に少しでも貢献出来る様今後もこの活動を続けていきたいです。





# 新入会員紹介

今年度も多くの方が県士会に入会されました。  
これからよろしくお祈いします。

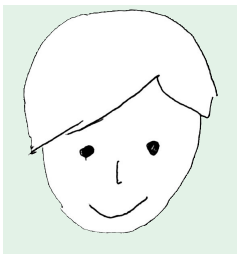
(順不同・敬称略)

①生年月日・血液型 ②出身地 ③出身校 ④勤務先 ⑤趣味・特技 ⑥職歴 ⑦自己アピール ⑧抱負



## 須内 茉衣

- ①平成4年9月20日・A型
- ②高知県
- ③高知リハビリテーション学院
- ④赤沢病院
- ⑤旅行
- ⑦コツコツと地道な努力を積み上げる力が高いところです。
- ⑧現在は、先輩方に色々教えてもらうことが多く、迷惑かけています。  
1Fでも早く患者さんとの接し方、リハビリの技術を向上していきたいと思っています。



## 和泉 泰平

- ①平成6年8月10日・A型
- ②香川県
- ③四国医療専門学校
- ④赤沢病院
- ⑤音楽、野球
- ⑦マイペースで頑張ります。
- ⑧患者様を理解し、心を動かせる作業療法士になります。

New!

# リレーエッセイ4

瀬尾 滉貴

(香川大学医学部附属病院)

多田 奈津美

(高松赤十字病院)

安部 まなみ

(医療法人社団研宣会 広瀬病院)

私は広瀬病院で勤務しており、今年で5年目になります。



現在は回復期リハビリ病棟にて主に整形外科疾患を呈した患者様のリハビリテーションを行っています。入職してから急性期病棟、回復期リハビリ病棟、外来とさまざまな時期のリハビリテーションを経験させてもらっています。この経験からリハビリテーションの流れを意識し、今必要なアプローチを考え、実施し、次に繋げていくことの大切さを学ぶことができます。

また、最近では介護予防の分野に興味を持つようになりました。私の住んでいる場所は山間部にあり、地域の方は高齢の方がほとんどです。しかし、私の祖母を含め日々農業を行い、地域活動に参加し、ときには旅行に出かけるなど元気でパワフルな姿をみていつも力をもらっています。私は受け身なこと

も多く、積極的に行動ができないことも多くありますが、作業療法士として地域に貢献していけるよう、今後できることから挑戦していきたいと思っています。



## 第20回 香川県作業療法学会 **ご案内**

拝啓 盛夏の候、会員の皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じ上げます。

平素は(一社)香川県作業療法士会の活動に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび、第20回香川県作業療法学会が下記の通り開催される運びとなりました。本学会が専門職としての知識研鑽と相互の情報交換、学術向上の場として会員の皆様が交流でき有意義な会と成り得るよう、実行委員一同、学会への多数のご参加と一般演題のご応募を宜しくお願い申し上げます。

敬具

### 記

#### 1. テーマ 『作業療法の歩む道～幸せになるために～』

平成31年

2. 会期 **1月20日** 日 9:00～16:00

3. 会場 **高松国分寺ホール**  
(〒769-0104 香川県高松市国分寺町新名430番地 TEL:087-875-0162)

4. 主催 一般社団法人 香川県作業療法士会

5. 内容 ◎特別講演『OTの今後の方向性(仮)』  
介護老人保健施設 せんだんの丘 土井 勝幸 先生

◎演題発表

県士会会員による公募

6. 参加費 会員:1,000円、非会員:8,000円、他県士会員:4,000円、  
他職種・一般:2,000円、学生:無料

7. 生涯教育ポイント 2ポイント

以上

<第20回香川県作業療法学会 運営委員会 事務局>

プライマリケア訪問看護ステーション 西田典真

〒760-0080 香川県高松市木太町1862-9

TEL:087-813-3515/FAX:087-813-3516 E-mail:kagawaot20@yahoo.co.jp

## 入 会

新谷 智希 (西山脳神経外科)  
 谷本 光 (ブルースカイ松井病院)  
 鎌野 輝 (吉田病院)  
 宮本真由美 (介護老人保健施設 渡の里)  
 溝渕 唯 (高松平和病院)  
 久保 麻依 (かがわ総合リハビリテーション事業団)  
 高橋さくら (ブルースカイ松井病院)  
 三野 与喜 (西紋病院)  
 平尾 芹奈 (坂出市立病院)  
 大西 星也 (橋本病院)  
 増田 有茉 (りっりん病院)  
 木村 果歩 (クワヤ病院)  
 大柿 奈子 (いわき病院)  
 宮武 歩実 (永生病院)  
 島本 知佳 (永生病院)  
 横手 祐樹 (かがわ総合リハビリテーション事業団)  
 法兼 弘季 (滝宮総合病院)  
 喜田 鈴音 (高松協同病院)  
 岡 美希 (西山脳神経外科病院)  
 渡邊 理央 (橋本病院)  
 篠原 雅樹 (橋本病院)  
 山崎 里恵 (デイケア西高松)  
 高井 健輔 (三豊総合病院)  
 伊藤 爽 (三豊総合病院)  
 原田 遥 (かがわ総合リハビリテーション事業団)  
 穴吹 康太 (デイケアセンターますらを)  
 前川 南 (介護老人保健施設 みの荘)  
 吉田和佳奈 (吉田病院)  
 末金 誠 (高松協同病院)  
 竹田 哲也 (高松協同病院)  
 藤井 春菜 (阪本病院)  
 木村 美月 (高松協同病院)



## 退 会

惣田 勇気 (健祥会 バーデン)  
 神徳 美希 (西紋病院)  
 和泉 純 (赤沢病院)  
 桑崎 裕矢 (しおかぜ病院)  
 石山 満夫 (プライマリー訪問看護ステーション)  
 北岡 翔 (西山脳神経外科)

## 異 動

池知 良昭 (香川県立中央病院) ▶ 香川県立丸亀病院  
 冲 祐利 (フラワーガーデン伏石) ▶ 丸亀林病院  
 山端 彩花 (介護老人保健施設すこやか苑) ▶ 自宅  
 那須功二郎 (おさか脳神経外科病院) ▶ 高島病院  
 湊 一樹 (田村クリニック) ▶ 介護老人保健施設白寿の杜  
 菰田麻菜美 (赤沢病院) ▶ うま農業協同組合 福祉部  
 三木 逸平 (特別養護老人ホームうちのみ) ▶ 小豆島中央病院  
 稲井 亮介 (かがわ総合リハビリテーション事業団)  
 ▶ 介護老人保健施設 松寿荘  
 丸岡 笑子 (太田病院) ▶ 介護老人保健施設やすらぎの森

## 復 会

中西 花奈 (ブルースカイ松井病院)  
 真鍋 奈菜 (ブルースカイ松井病院)

## ■ (一社)香川県作業療法士会ニュース No.74 ■

編 集 長：木村勇介 編集委員：高橋優里・水口未紅・安藤瑞基・大谷知佳・村上太気・善相原健史・  
 瀬知杏奈・大島祐輝・細谷かぐや・金倉由美